

## 宮崎県学校体育研究会について

宮崎県の学校体育研究会の特色は、県研究発表大会を年1回、小・中・高・特の4校種が同じ日に同じ地区で実施していることです。2日間開催の年は、1日目に同一会場で4校種の公開授業、2日目に各部会（校種ごと）に公開授業を行っています。（→資料1）

県小体連、県中体連、県高体連の中に“学校体育研究”も含んでいるため、宮崎県ではスポーツ競技力向上と学校体育授業の両輪で、県教育庁スポーツ振興課と地元大学教授の指導のもと、全ての機関で連携しながら宮崎県のスポーツ界を担っています。（→資料2、2-1）

大会開催にあたっては、小中高特の先生方が一堂に会して合同会議を年15回程行います。また、授業改善を図る過程とその成果を公開発表するまでを大会発表の意義と捉え、事前研究会を実施し、より深い研究推進を図っています。（→資料3）

### 【宮崎県学校体育研究発表大会沿革概要】

- 1960年（昭和35年）  
小・中・高等学校教育研究会の保健体育部会を母体として、県教育委員会の指導により活動がはじめられる。
- 1972年（昭和47年）  
県教育委員会依存の姿から主体性を持って歩き出すことになる。事務局を県高等学校体育連盟の中に位置付ける。  
※ 主題は小・中・高等学校で揃え、副題を各校種で設定する。  
※ 2日間開催とし、1日目は全体会、2日目は各部会となる。
- 1973年（昭和48年）  
各部会ごとの研究協議会を1つにまとめ、宮崎県学校体育研究発表大会として開催する。
- 1976年（昭和51年）  
会員を一同に集め、小・中・高等学校における公開授業（系統的授業）が発表される。
- 1987年（昭和62年）  
同一種目での授業が見直され、「つながりのある学習」（種目を変えての授業）として発表される。
- 1990年（平成2年）  
事務局が県高等学校体育連盟から独立し、小・中・高等学校持ち回りの事務局として設置される。
- 1995年（平成7年）  
特別支援教育部会が設置される。
- 2003年（平成15年）  
再び事務局を県高等学校体育連盟に置く。※現在に至る
- 2007年（平成19年）  
従来2日間で開催されていた大会を1日開催（各部会のみ）、2日間開催（1日目は全体会、2日目は各部会）の隔年実施とする。

[宮崎県学校体育研究発表大会50周年記念誌より一部抜粋]

研究内容についても1976年（昭和51年）から、一貫して系統性を深めるなど「系統的授業」（同一種目での授業）の研究を行ってきました。

その後、1987年（昭和62年）から、教師が見通しを持ちつつも、子ども側に沿った指導の在り方に視点を転換し、「つながりのある学習」（種目を変えての授業）の研究を行ってきた背景があります。

現在、平成29年度から平成32年度までの4年間は小・中・高（特）12年間の必修領域である“体づくり運動”に研究を絞り、小中高特における「つながりある学習」の一層の充実を図ることを目指しています。また、新しい学習指導要領に対応した取組も視野にいれ1年1年研究成果を積み上げているところです。（→資料4、4-1）

※平成28年度宮崎県学校体育研究発表大会の様子（→資料5）